

23. 東京駅界限は帰宅困難者であふれる

K. K 48歳 主婦 世田谷区在住

- どこに誰といましたか。

銀座7丁目の交差点に友人と2人でいました。激しくビルが揺れ、見上げるとビルの窓が開いたり閉まったりしていたので、落下しはしないか不安を感じ、車道の中央に出ていました。

- どのように自宅に帰りましたか。

すべての電車が止まったので、座っていられるところを探し、有楽町から東京駅周辺まで歩きました。帰宅を諦め、ホテルに泊まろうとしましたが、どこも満室。休めるお店を探し、何軒かあたっているうちに暗くなって来ました。やっと、カフェバーのような店のカウンターに何とか席を獲得。TVを見ながら、あらためて地震の大きさに驚きました。東京駅の地下道は座っている人で埋まり、周辺のホテルのロビーも貸し出された毛布を敷いた人でびっしりでした。

ようやく、新幹線新横浜駅に停車中の夫とメールで連絡がつき、この場所で落ち合うことになりました。夫は、大阪へ出張に出かけたのが、幸いにも新横浜駅で足止めされていたのです。ですから、車内に閉じ込められることなく、動き出した上りの新幹線に乗ることができました。

ただ、夫への連絡は、携帯メールだけで、それも打ちっぱなしなので果たして届いているかどうかわかりませんでした。でも届いていて、私たちのいるカフェバーに突然現われたのは、22時半ごろだったと思います。それから2時間ほど、飲みながら電車の動くのを待ちました。友人は、夫が栃木へ出張中で連絡がとれず、携帯の電池が切れ、コンビニの充電器も完売。不安のまま、零時半頃、東京駅で別れましたが、私たちと同じころ帰宅したそうです。

私たちは、そのうち地下鉄が動き出したので、乗り継いで世田谷の自宅に着いたのは2時過ぎでした。木造2階建ての自宅では、とくに被害はありませんでした。

- 最後にひとこと。

いわゆる帰宅困難者になりましたが、友人が一緒だったことと、夫へメールが届き落ち合うことができたこと、さらにスポーツ観戦用の大型TVで常時、電車の運行情報がとれたことは幸運でした。このようなとき、落ち着いてつぎの行動をしっかりと考え、すみやかに動くことが大切と思いました。

2011年8月30日